

高校英作文における中・高のつながりについて

(中学2・3年の言語材料による和文英訳テストとその結果から)

加藤 剛 高橋恵亮 倉田有邦 高橋みな子 盛田義彦

要 旨

高校の文法作文で扱われる言語材料は大部分が中学学習事項のくり返しなのであるが、その Production 段階における 定着度は決して満足できるものではない。文法作文教材(特に検定教科書の)の精選と、その配列の仕方に根本的修正を加えることが必要であろう。

I はじめに

高校新入生が、英語の授業において感ずる、中学との相違の中で、特に大きなものといえば、第1に進度が急激なこと、第2に文法作文の重視があげられるようである。前者は主としてリーダーやサイドリーダーに関して、後者は作文・文法の授業に関していわれることであるが、いずれも標準的もしくはそれ以下の学力の生徒には、かなりの重圧となっていることは否定出来ない。能力差の大きい本校では中学・高校兼任という事情ともあいまって、中・高の関連はかなり切実な問題となっている。成績上位者はもちろん伸ばして行かねばならないが、下位者への対策がそれ以上に必要なのである。今回は、中学必修事項について、先日中3から高2までを対象として行なったテストから、中・高の関連の問題を調べ、今後の指導の手がかりにしようと思う。

II 和文英訳テスト

次のテストは42年7月、高2・高1・中3生徒を対象として行なったものである。問題の言語材料はすべて現行の中2および中3の教科書からとった。したがって、もし中学における既習事項を完全に消化し定着させているならば、満点をとることも不可能ではないはずのものである。

〔問題〕

(A) 中3～高2を対象とするもの(中2の言語材料による)

1. 彼は楽しそうな顔をしていました。
2. 彼女は歌うのをやめた。
3. 私はバナナが食べたかった。
4. 彼は本を読みはじめた。
5. 君は辞書の使い方を知らない。
6. 彼女がたいへん親切であることはだれでも知っている。
7. 彼は私たちにおもしろいお話をしてくれました。
8. 私たちはこの犬をジョンと呼んでいる。
9. 私は壁を白くぬった。
10. 私は彼が通りを歩いているのを見ました。
11. 君は来年の夏にはもっとじょうずに泳げるようになるでしょう。
12. 彼にすぐ来てもらいたい。
13. 彼にもっと一生けんめい勉強するように言ってください。
14. 速いなあ、彼女は走るのが。
15. 君はずいぶんいいカメラを持っているなあ。
16. この絵は数年前にかかれました。
17. その手紙は英語で書いてある。
18. 私は手紙を書いてくれとたのまれた。
19. 私はその店に卵を買いに行きました。
20. 何か飲むものをください。

(B) 高2・高3を対象とするもの(中3の言語材料による)

21. 少年は大きくなってりっぱな芸術家になった。
22. どちらの本を買ったらよいのかわかりませんでした。
23. どこで切符を買うのか教えてください。
24. 彼がいつ来るのかご存知ですか。
25. 彼に野球が好きかどうかきいてごらん。
26. 私は写真をとってもらいました。
27. 彼女は服を一着作らせた。
28. 私は彼を帰宅させた。
29. 彼が入って来るのが見えた。
30. 英語を書くのはむづかしいことがわかった。

31. 川を泳いで渡るのは彼には容易だと思う。
32. 最善をつくすことは大切だ。
33. 彼はすわってテレビを見ていた。
34. 君はずいぶんむづかしい質問をしてくれたねえ。
35. それについてその時以来たきさんの本が書かれています。
36. フランス語が話せたらなあ。
37. いい友だちを持ってほくはしあわせだ。
38. 彼女はできるだけたきさんの人形を作った。
39. 彼女は私と同じくらいの背丈だ。
40. 彼女は帰宅するとすぐ宿題を始めた。
41. トム、もう寝た方がいいよ。
42. 私はすぐ出かけなければならなかった。
43. 彼女はとてもかわいいのでみんなに好かれています。
44. この靴は小さすぎてぼくにははけない。
45. 彼は英語が話せるばかりでなく書くこともできる。
46. この本を書いた人はフランス人です。
47. 彼は私たちがよく知っているお医者さんです。
48. 私がきのう買った本はたいへんおもしろい。
49. 私はおとうさんが医者である少年を知っています。
50. 屋根が赤くぬってある家が見えます。
51. 私がその戸をあけたかぎがここに 있습니다。
52. 手に持っているものを見せてごらん。
53. これは彼がその本を書いた部屋です。

III テストの結果とその考察

誤答の多かった構文をまとめてみると次のようになる。

A. 文型に関するもの

- 問題 1. He looked happy.
 問題12. I want him to come at once.
 問題13. Tell him to study harder.
 問題26. I had my picture taken.
 問題27. She had a dress made.
 問題28. I let him go home.
 問題33. He sat watching television.

B. 連語に関するもの

- 問題38. She made as many dolls as
 (possible)
 (she could)
 問題40. As soon as she returned home, she
 began to do her homework.
 問題41. Tom, you had better go to bed.

- 問題44. These shoes are too small for me
 to wear.
 These shoes are so small that I
 can't wear them.

C. 文法事項に関するもの

- 問題21. The boy grew up to be a good artist.
 問題22. I didn't know which book
 (to buy
 I should buy)
 問題23. Tell me where (to buy
 I should buy)
 tickets.
 問題24. Do you know when he will come?
 問題25. Ask him (if
 whether) he likes base-
 ball.
 問題36. I wish I could speak French.
 問題46. The man (who
 that) wrote this book is
 a Frenchman.
 問題50. We can see a house
 (whose roof
 the roof of which) is painted red.
 問題51. Here is the key with which I open-
 ed the door.
 問題53. This is the room (where
 in which) he
 wrote this book.

以上のように分類してみたわけであるが、これらの構文がなぜ出来が悪いのかを考察してみると、大体次のようなことが言えるのではなからうか。

第1に日本語による表現との差が大きいということ。いわゆる英語独得の表現と日本語による表現の相違は、特に和文英訳というテスト形式をとった場合、大きなブレーキとして働くわけである。同じ英文を書くにしても、与えた日本文の表現の違いによって正答率はかなり左右される。例えば問題1の 'He looked happy.' (彼は楽しそうな顔をしていた) という文などは、「楽しそうに見えた」としてあれば、正答数はもっと多かったに違いない。それほど「顔」という日本語にこだわっているのである。不定詞や分詞、いわゆる Verbal を補語にとる文型も、日本語表現の知識だけでは割り切れないために正答数の低下を来しているものと考えられる。grow up to be ~ とか too ~ to ~ の形なども、この場合、日本語からの類推がきかないため使いこなせないであろう。また関係詞の問題では、特に前置詞を伴っているものや、所有格のものなどは出来が悪く、このように見て行くと、誤答の多い構文の大部分は、日本語からの類推がきかないためであり、むしろ、日本語の介在が、英文構成上の妨げとなっているような感がある。

第2に、比較的長い構造を持った文、たとえば Clause を含むいわゆる複文においては、語順とか時

制など、幾つものポイントがあり、それだけに完全正解が少なくなるわけである。今回は時制のみの問題は調査から省いたが、各種 **Clause** の中における時制はやはり構文上からも無視出来ないため、誤答は誤答として扱った。

第3に、これはすべての問題に共通するわけではないが、中学で初修して以来、反復頻度の低かったものがあげられる。**I wish**+仮定法の構文とか、**had better**+原形の構文などがこれに当たる。これらは少々反復練習をしさえすれば、構文そのものがむづかしいわけではないので、比較的簡単に、正答率を上昇させることが出来る。これらはあとで述べる中・高連絡上の教科書の問題と関連がある。

以上のような理由により、誤答の多い構文がでるわけであるが、それに対してどのような対策をたてたらよいだろうか。さきほども触れた通り、むしろ日本語の介在なしに、英文そのものを多く与え、理屈抜きで反復練習させるほかないのではなからうか。中学においてよく行なわれている **Pattern Practice** の練習方法など大いに取り入れる必要がある。反復するうち無意識に英文独得の用法を身につける一例として、冠詞の用法のことにふれておきたい。冠詞などは一時的に特殊な用法までも含めて多数の用法をつめ込んでも定着するものではなく、自然に、いわゆる語感から無意識のうちに使われるべきものであろう。結果から言うと、これは明らかに学年が進むにつれて誤りの数は少なくなっている。(別表2参照)

反復練習という見地から見た時、それに先立つものとして教材のことを考えてみなければならない。特に書く力を養うのにもっとも大きな役割を担っている文法作文の教科書の問題を考えてみたいと思う。

IV 教科書の現状

中学においては、どの教科書をとってみても、その言語材料は大同小異であり、指導要領に示された領域を **Minimum Essentials** として、それに肉付けしたような感じがする。もっとも細かく見れば多少の差異はあるようで、不定詞付対格構文の受動態 **'be told (asked) to ~'** の形を扱っているもの (**Junior Crown**)、扱っていないもの、文法用語をかなり多数とり入れているもの (**S. J. B.**)、いないものなどあり、また、必須学習事項の取り扱いについてみると、教科書中に出てくる頻度にちょっとした差異はあるようである。しかし教材の配列には、どの教科書もそれなりの工夫がみられ、つとめて無理なく学習出来るように編まれている。

問題は高校教科書、特に文法・作文の教科書にあ

る。ほとんどの教科書が、文法の品詞分類による配列のため、集中性が強い半面、中学での既習事項中の重要なもので、高1での1年間、完全に空白になっている場合が少なくない。教科書の種類により異なるが、関係詞や準動詞、あるいは比較構文・従属節などが、高2になって始めてあらわれるものが多いのである。書く力を上昇させるには、何といっても練習回数を多くせねばならない。それが1年以上もの空白をおいてはあきらかにマイナスである。根本的に解決するためには、教材の配列を改めなければならない。重要事項が3か年にわたって反復練習され、特に最初の巻では中学既習の重要事項が一通り復習され得るような教材が必要ではなからうか。現行の文法項目による分類では、この要請には応じきれないであろう。

このような難点をかかえた教科書ではあるが、ともかく授業はそれを主軸にして展開して行かねばならない。「教科書を」学習するのではなく、「教科書を使って」学習するのだとはいえ、かなりの工夫がなされないと、労多くして成果は少ないものとなってしまふ。

V 中学での書く力をつけるための留意事項

中学においては書く力は、四技能の最終段階として、指導すべきものとされているが、**Recognition** にとどめておくべき事項と、**Production** の段階までもって行かなければならない事項との区別がかならずしも明確ではない。先にあげた和文英訳テストの材料も、中学の立場からいえば、あれを全部書ける段階にまで指導することは、全くもって無理な要求と見られることであろう。しかし少なくとも現在の中学における英語学習全般の傾向を見た場合、書く力の指導があまりにもおろそかになってはいないだろうか。聞くこと、話すことを重視するのは大いに結構なことである。しかしそれとほうらはらに読解力と、書く力とが後退してしまったのでは何にもならない。テスト形式にしても、つとめて〇×式は避けるようにしたいものである。

本校中学での指導上の留意事項は次のようなことである。ただ、抽選入学してきたとはいえ、公立中学に比べれば素質的にすぐれた者の比率が多いことであるから、これらの指導がそのまま公立校でなされ得るかどうかは若干疑問である。

留意事項の第1は口頭作文の重視である。

Pattern Practice を中心として口頭作業を主にすることは当然であるが、機械的な **Substitution** のくり返しにとどまらぬよう気を配っている。機械的反

復作業には何の抵抗もなくついて来られる生徒でも、実際になまで言わせてみると、意味がつかめていない場合が往々にしてある。口頭作文を重視せざるを得ないわけである。

第2に復習用に英作文の小テストをほとんど毎時行なう。問題は教科書の本文をそのままか、または少し単語を入れかえる程度。

第3に、定期考査において、かなり和文英訳を重視すること。公立校の出題形式とはこの点で大いに異なるようである。

このような、作る力・書く力を重視した指導は、学向上のためにはあきらかに効果があるが、半面問題もないではない。それは一口で言えば、学力差の拡大ということである。もっともこれは拡大するというより、もともと存在している差が、より大きくはっきりと現われるということである。しかしそのために成績下位者に不当な挫折感を与えることはわれわれとしても十分に注意しなければなるまい。

VI 高校での書く力をつけるための指導

小規模の学校の割には学力差の大きな本校においては、特に初学年のうちに、中学の復習ということにはかなり気を配っているわけである。留意事項は次のようなものである。

第1に、リーダーにおける書く力の重視。中学教材と程度のあまり変わらない英文を扱う文法・作文の時間に、中学との関連を重視するのは当然なことであるが、文法に偏り過ぎて全面的な復習指導は出来ない。そのため、リーダーでの補充的な作文指導をする必要があるわけである。もっとも **Recognition** にとどめるべき事項との区別は、はっきりとつけておく。

第2に、英作文副教材の使用。たいてい高校で行なっていることであるが、本校においても同様である。教材は、特に初級学年には、中学の復習に重点を置くという見地から選定する。

次に指導上の留意点をあげると次のようなことである。

1. 中学の教科書についての知識を十分に持っていること。もっともこれは8割5分ほどの生徒は名古屋市市内校からの進学者で、同一教科書を使っているため、われわれにはさほど困難なことではない。
2. 音声面を重視し、かならず口頭で言させた後、書かせることにする。板書させる場合には、暗誦したものを書くようにし、本やノートを持って行かせない。全体的にスピードを重視する。
3. 厳しさと寛やかさを使いわける。中学側からみれば、

ともかくもある水準以上の生徒が集まっているわけであるから、もっとも基本的な事らについては厳しく指導すべきである。文字のあいまいさ、句読点のずさんさなどは、はっきりチェックすべきである。その半面、使用頻度の少ない単語や、綴りのむつかしい単語などでつまづかせて、学習意欲をそぐようなことは厳に注意しなければならない。作文指導にはとくに、生徒に何らかの成就感を持たせることが必要であると思われる。

VII おわりに

以上で、中・高の連絡上の問題点と、指導上の留意事項を述べたわけであるが、高校側としては、中学でいかなる指導がなされて来ようと、それを受け入れ、更に発展させて行かねばならない。ともすれば大学入試に気をうばわれて成績上位者のみを対象としたような授業やテストをやりがちな我が身を反省し、自戒の意味で今回の調査をやってみたわけである。中・高の連関への配慮が、高2以後ほとんどかえりみられていないことは正直なところ事実である。しかし今回の調査を更に発展させることにより、より適確な、より無駄のない指導をするための手がかりとして行きたい。

別表1 ここに挙げたのは、上記のテストのうち、誤答が特に多かったもの、主な誤答傾向を記したものである。調査人員は高2・高1各100名、中3は92名である。言語材料が中3のものから取られている問題は、高2・高1のみを対象とした。(中3は未修)

問題 1. He looked happy			
	高2	高1	中3
正 答 数	35	19	25
誤答傾向			
look like <small>形容詞 + 副詞 名 詞</small>	8	22	15
happy face 使用	11	25	11
look + happily (その他副詞)	10	4	0
look + 誤った形容詞	7	5	0
無 答	4	9	7

問題27. She had a dress made.		
	高2	高1
正 答 数	16	12
誤答傾向		
She had made a dress.	4	14
She made a dress.	8	10

She made make a dress.	9	2
She let make a dress.	3	4
She had make a dress.	5	4
She made to make a dress.	4	3
She had a dress make.	4	2
She was made a dress.	2	2

問題33. He sat watching television.		
	高2	高1
正答数	27	27
誤答傾向		
watch (look at) ~ sitting	26	28
watch (look at) ~ to sit	6	9
watch (look at) ~ $\left\{ \begin{array}{l} \text{on} \\ \text{in} \\ \text{with} \end{array} \right\}$ sitting	7	0
sit and watch ~	6	4
watch sitting ~	0	7
sitting watch ~	0	3
sit to watch ~	0	3
無答	6	4

問題12. I want him to come at once.			
	高2	高1	中3
正答数	61	65	28
誤答傾向			
want to come him	11	11	6
want him come	8	5	1
want to him come	1	1	13
want him coming	3	4	0
want that he comes	3	3	0
hope he come(s)	4	0	1
want to he come	0	0	6
want to come to him	0	1	4

問題13. Tell him to study harder.			
	高2	高1	中3
正答数	68	54	29
誤答傾向			
Tell him study ~	5	17	13
Say him study ~	5	3	4
Tell him he study ~	6	0	0
Tell him studying ~	0	5	2
Tell him more study.	0	2	4

問題41. Tom, you had better go to bed.		
	高2	高1
正答数	62	50
誤答傾向		
had better to go	11	22
had better $\left(\begin{array}{l} \text{went} \\ \text{going} \\ \text{gone} \end{array} \right)$	1	6
may go ~	4	3
無答	5	6

問題38. She made as many dolls as (possible) (she could)		
	高2	高1
正答数	44	63
誤答傾向		
made dolls as many as ~	24	6
made many dolls as ~	7	7
made many dolls she $\left(\begin{array}{l} \text{could} \\ \text{can} \end{array} \right)$	4	3

問題22. I didn't know which book (to buy. I should buy.)		
	高2	高1
正答数	49	37
(正答内訳) (which book to buy) (29) (36)		
(which book I should buy) (20) (1)		
誤答傾向		
which book I bought	26	28
which book I buy	2	6
to buy which book	2	2
which book I $\left\{ \begin{array}{l} \text{must} \\ \text{could} \\ \text{might} \end{array} \right\}$ buy	3	4

問題23. Tell me where (to buy tickets. I should buy tickets.)		
	高2	高1
正答数	42	37
(正答内訳) (where to buy tickets) (13) (27)		
(where I should buy tickets) (10) (1)		
誤答傾向		
where I buy ~	28	34
where I bought ~	5	4

where buy the ticket	6	3
間接疑問文の語順の誤り	4	8
where I $\left\{ \begin{array}{l} \text{may} \\ \text{will} \\ \text{might} \end{array} \right\}$ buy ~	5	3
where ticket to buy	0	3

問題21. The boy grew up to be a good artist.		
	高2	高1
正答数	36	34
(使用構文内訳)		
不定詞使用 (内正解)	7(4)	30(22)
and 使用 (内正解)	49(29)	28(12)
when 使用 (内正解)	10(3)	11(0)
前置詞 to 使用 (内正解)	1(0)	4(0)

問題24. Do you know when he will come ?		
	高2	高1
正答数	69	48
誤答傾向		
~ when he come	28	35
~ when (does) he come	0	8
~ when (will) he come		

問題36. I wish I could speak French.		
	高2	高1
正答数	32	31
誤答傾向		
If で始めたもの	15	25
I wish で始めて動詞が誤っているもの	26	9

問題28. I $\left(\begin{array}{l} \text{let} \\ \text{made} \end{array} \right)$ him go home.		
	高2	高1
正答数	62	57
誤答傾向		
$\left(\begin{array}{l} \text{let} \\ \text{made} \end{array} \right)$ him to go home.	17	9
$\left(\begin{array}{l} \text{let} \\ \text{made} \end{array} \right)$ him went home.	7	2
$\left(\begin{array}{l} \text{let} \\ \text{made} \end{array} \right)$ him gone home.	1	4
$\left(\begin{array}{l} \text{let} \\ \text{made} \end{array} \right)$ him back home.	2	10

問題35. Many books have been written about it since then.		
	高2	高1
正答数	38	24
誤答傾向		
~ are written ~	24	28
~ were written ~	5	8
~ has been written ~	4	8
~ is written ~	2	5
~ have written ~	6	2
~ was written ~	4	1
~ have been writing ~	1	7

別表2 不定冠詞の誤り

問題	誤り	問題3 ~ to eat (some bananas. / a banana.)	高2	高1	中3
		問題5 ~how to use a dictionary.			
		問題7 ~ an interesting story.			
問題3	単数無冠詞	(11名)	(21名)	(46名)	
問題5	単数無冠詞	(7名)	(12名)	(22名)	
問題7	単数無冠詞	(9名)	(23名)	(37名)	
	an → a	(14名)	(19名)	(17名)	